



特  
連 13  
2064  
2止





可笑記卷第又

ひりうろく人のつかひ新田左中將義貞公此城を  
 運ぶるも一そしうろく老法師のこころはたつた  
 大將とぬくうく一ひりも一あけ一さきさき  
 ちりぬるのまふりひ天運はまきそそのれは  
 百姓の熱る一いふらわさひひ天先をわえ  
 清ふるまらさこのがさき一一人の振うくむ  
 天先をまて清ふ法人のあつさき一む可天  
 是しとめぐと清ふさきば百姓のうき一を  
 勤めてぬくけ一む一侍のなうひこそ

可笑記 卷五

門へ 13  
 2064  
 巻 2

あつた日米の愚とてそつわつてを報へ情あれ  
時六年ころに述べ懐とわされて一帝とつるまを  
さしげらうらのさつひまひひと愚とわつてな  
うけとけ礼とわつて貴殿とて一帝用乃ゆ休  
親とされあつて法侍入らうとておらんも一と  
そつハ愚痴のつてさつるま又おんちうとわ  
つんも一帝代新泰よりうべし忠切りま  
しとて一書よ白舊画と思ひ出つて新に忠切を  
わらうつらまひつらうらう人ともうらうらや回  
西もあつて忠切あらんまうらうにおあつて  
く忠切あつてとん又やういぢうらうの人あり

新泰忠切の人とてさつらうまをすまわら  
西とせんさつて死罪流刑とて一又を  
のう侍あつても武道おんさつてあつて味あ  
うあつておんさつ貴殿とて一いつんや藝能  
文武よんざつてあつて鬼は鉄技あつて一いつ  
法藝方格ありとつた武乃んびりゆげんあつ  
そん人のさつわらんまかうそん十人あつて  
ふかぬも一なつてあつておんさつ貴殿とて  
ど柳まうして愚義あり親とて忠切あり  
巨うして忠義ありみうして孝依あり  
てあつてあつてあつてあつてあつてあつて

新泰忠切

倭あり婦よりて順我あり右に大倭とありふ  
人よりりももらぐーやー心づーひあやま  
て是とありまばあー天爵とありひん事  
うーひあーされも善代お侍の侍よおわして夜  
そまのらわめたそ人の父祖はの忠切の  
思ひせーても料とゆうひト古入日今の料を  
わくまらぐりくぬら忠切とまらもあれ  
とたじやごいあんだんのとてあくたもこれ料を  
ハゆらとト一毛天帝より一たならさいんまハ  
善代新赤出歌ふお口のつてあく死罪流刑り  
わくまらぐー右流曰大罪ありまらざれば人ころす

あく小罪ありあつられど人あつてもあー忠切な  
まに忠実わよまを説者うーど忠切あつり  
忠実わくえざれど忠切とまらもあくまら  
さあーん罪ハ大くありくたすまらまゆー  
ハ大くまらくたすまらまに忠実わくまらま  
まに小切を考やされま大切とまらまら  
まらつーまらまらまら  
ひーのらうー美奈の國の李斯とつらハ利教  
そ乃あまらうらうらんとあつてあか人のまにまら  
つーわらひつがわつ時君隠へけあつてあつて  
あく善とまらまらまらまら

立りて後又經月ありていぬまは又移ぶるん  
物と業果のたがひをくくくくくくくくくくく  
ふ別けりわの移すくくくくくくくくくくく  
て食物までもうわわわんも又くくくくく  
のり何いんて身と百のくくくくくくくく  
とんくくくくくくくくくくくくくくくく  
始自帝とくくくくくくくくくくくくく  
とめきたうく位よのがりぬくくくくく  
賢くくくくくくくくくくくくくくくく  
人宿ふもたうくくくくくくくくくく  
つくくくくくくくくくくくくくくく

かくりけきびくくくくくくくくくくく  
たぐくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
もくくくくくくくくくくくくくくく  
ひくくくくくくくくくくくくくくく  
ぬくくくくくくくくくくくくくくく  
てわくくくくくくくくくくくくくく  
で物よりくくくくくくくくくくく  
がひくくくくくくくくくくくくくく  
なる大のくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくく

申ありわいさきとや  
 びーく回<sup>だう</sup>は道林とつらたらんさ<sup>だう</sup>俣ありこの  
 申あるすこよそあまの飼<sup>ひ</sup>をそくめそり又<sup>だう</sup>存<sup>ぞう</sup>  
 のま<sup>い</sup>いよとてこのまそおわくといりあつ人の  
 まのりいぬいよといぬくもまをすま<sup>い</sup>流<sup>り</sup>ま<sup>い</sup>  
 申あよにああま申あまをいけさむは俣をそ  
 曰<sup>なれ</sup>ふハ毛<sup>毛</sup>る乃<sup>乃</sup>もやうがかりわーた丹<sup>丹</sup>のハ水<sup>水</sup>也  
 作<sup>作</sup>ま<sup>ま</sup>くくも<sup>も</sup>勢<sup>勢</sup>そ<sup>そ</sup>わわ<sup>わ</sup>ど<sup>ど</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>出<sup>出</sup>  
 申のまうしてまやま<sup>ま</sup>お<sup>お</sup>あり<sup>り</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>ハ<sup>ハ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>が  
 見えも<sup>も</sup>あり<sup>り</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>申<sup>申</sup>な<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>水<sup>水</sup>と<sup>と</sup>思<sup>思</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 申<sup>申</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>え<sup>え</sup>ま<sup>ま</sup>乃<sup>乃</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>

申ありいさ  
 びーくう人のらりハく<sup>く</sup>知<sup>知</sup>る<sup>る</sup>意<sup>意</sup>比<sup>比</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>な  
 づらの中<sup>中</sup>にそ何<sup>何</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>款<sup>款</sup>ハ<sup>ハ</sup>付<sup>付</sup>て<sup>て</sup>中<sup>中</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>が  
 申<sup>申</sup>又<sup>又</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>師<sup>師</sup>匠<sup>匠</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>く  
 物<sup>物</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ざ<sup>ざ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>又<sup>又</sup>年<sup>年</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>魂<sup>魂</sup>氣<sup>氣</sup>と<sup>と</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>づ  
 申<sup>申</sup>懐<sup>懐</sup>な<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>申<sup>申</sup>又<sup>又</sup>何<sup>何</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>お<sup>お</sup>わ<sup>わ</sup>て  
 後<sup>後</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>め<sup>め</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>そ<sup>そ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>ん  
 ね<sup>ね</sup>い<sup>い</sup>り<sup>り</sup>又<sup>又</sup>金<sup>金</sup>指<sup>指</sup>く<sup>く</sup>う<sup>う</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>う<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>  
 び<sup>び</sup>ー<sup>ー</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>申<sup>申</sup>又<sup>又</sup>肉<sup>肉</sup>の<sup>の</sup>者<sup>者</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>こと  
 う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>づ<sup>づ</sup>申<sup>申</sup>懐<sup>懐</sup>ら<sup>ら</sup>や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>う<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>申<sup>申</sup>皆<sup>皆</sup>  
 毛<sup>毛</sup>人<sup>人</sup>乃<sup>乃</sup>才<sup>才</sup>一<sup>一</sup>乃<sup>乃</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>







日といひつゝ思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 ころころとて思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 生死をばしらんや思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 あらうとて思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 して流轉をまぬるものありしは世にあらざるも  
 さかきつゝ思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 んの聲をききぬるものありしは世にあらざるも  
 とはしよとて思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 理をぬるものありしは世にあらざるも  
 物とて思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 上代清浄の世の事 末代濁穢の世の事

のようぬるものありしは世にあらざるも  
 ころころとて思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 生死をばしらんや思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 あらうとて思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 して流轉をまぬるものありしは世にあらざるも  
 さかきつゝ思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 んの聲をききぬるものありしは世にあらざるも  
 とはしよとて思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 理をぬるものありしは世にあらざるも  
 物とて思ひぬるものありしは世にあらざるも  
 上代清浄の世の事 末代濁穢の世の事

このこ上位は何ら一人と下一人を氣さくや  
しついでに若く若人よまじつれだもあつて  
禰書 禰侍 歎文章 若人よまじつれだもあつて  
あれさあれ理あつてさういふ義さういふ程は十の  
内は七の七は八の八の二三の二三の町人百  
だつてさういふ下位はさういふ人  
うやまひさきあつてさういふ人よまじつれだもあつて  
ばあつてさういふ人よまじつれだもあつて  
して十の十の十の十の二三の二三の町人百  
トハ八九の八九の八九の八九の町人百  
さういふ町人百の愚歌の人よまじつれだもあつて

ゆらんゆらん白我ゆらんて後能くさあは出  
ぶあつてのもしあつてさういふ人よまじつれだもあつて  
おとまじつれだもあつて  
むい申細云友房 禰とさういふ人よまじつれだもあつて  
ついでに若く若人よまじつれだもあつて  
あれさあれ理あつてさういふ義さういふ程は十の  
内は七の七は八の八の二三の二三の町人百  
だつてさういふ下位はさういふ人  
うやまひさきあつてさういふ人よまじつれだもあつて  
ばあつてさういふ人よまじつれだもあつて  
して十の十の十の十の二三の二三の町人百  
トハ八九の八九の八九の八九の町人百  
さういふ町人百の愚歌の人よまじつれだもあつて

ひより内裏とまうりあしむひきまご大内山の  
 月影もあまほくさくさのあまうりつらりて  
 やうくまぐさふぶのいさくさふにうら入  
 石二房を戒の仰うておまひつゝ言はし  
 とまうりあしむさうさうぶ父の大納言官房  
 ことつらひうてうらひもせ給ふ父大納言この  
 人のすまうとさうし出あしくたつひり給うら  
 まおまの随世<sup>ぜんせい</sup>人すまあれ一草庵とあり  
 とてゆく急うと行脚<sup>あんぎゃ</sup>よお給ふさて父大納  
 言たづひつと給ひてもおのうとさひなうら  
 石二房言て曰さうの世すて人いさう一書ら

しつとあてえよひのうが行脚のんご  
 つらう後<sup>うしろ</sup>もあうらびとくさひらよま入は人  
 のすまうとさうしあわうらやまじよあま  
 信まうらとせうた世の人さうおのねまこらん  
 父大納言のうらまごういさういさういさういさう  
 りり給うらと世にたれあま世すて人あ世の  
 世にすまうとさうしあま  
 ひうらうら<sup>うらうら</sup>信まうらとせうら  
 只<sup>ただ</sup>おまてりりうらにけうらとせうらおま  
 ゆうらび何のう用よめとせうらや信まうてひら  
 おや房れのいまうらうらあうらうのさあうらうの

ひすよのせんごく抱つこらんとの用をこぞと  
 ひつろくくのせんごく抱何とてつあつらん  
 ひろくろく人のろく麻と遊獵師はととび  
 うそめあついのまろぬのまろなぞとまろひき  
 獵師はせ飛たこのまろとろろさんと一ふゆらん  
 よ思ひ入あつひてあつく時あつた山まろあつた  
 やん家<sup>こ</sup>がまろやんゆめくあつてさびまろ  
 ごとく當代のまろとろく人の利欲のまろ付てハ  
 ろれよのこんひれ気がうつてまろひあつた  
 わろまろ後まろまろまろまろまろまろまろ  
 ひろがりまろまろまろまろまろまろまろまろ

おまろ人わりてまろにまろまろまろまろ  
 けろくろくまろまろまろまろまろまろまろ  
 ろくまろまろまろまろまろまろまろまろ  
 して人のまろまろまろまろまろまろまろ  
 ろせけまろまろまろまろまろまろまろまろ  
 の目まろまろまろまろまろまろまろまろ  
 まろまろまろまろまろまろまろまろまろ  
 ひろくろく人のまろまろまろまろまろまろ  
 やあまろまろまろまろまろまろまろまろ  
 なろまろまろまろまろまろまろまろまろ  
 こまろまろまろまろまろまろまろまろまろ

してさけぶくしとらりうわぬわぬとよの  
 さるよあまのさけとくうとくうとくひくあま  
 よおとよしてけうわのさけとくうとくうとく  
 一よんあひさき酒ぞもらうとくうとくうとく  
 うらうらうらうらうのさけとくうとくうとく  
 ぬくうとくうとくうとくうとくうとくうとく  
 成て大換とくう男上被<sup>ん</sup>裁一とくうわまうとく  
 ぶたりとくうあれとくうとくうの隣<sup>とくう</sup>のんよとくうとく  
 とだつひさひさきとくうとくうとくうとくうとく  
 の酒つとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく  
 人あつとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく

ありとく酒つとくとめとくおにわとくちとく一とくひとく  
 一とくお付とくゆとくとくうとくうとくうとくうとく  
 あつとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく  
 一とくお付とくゆとくとくうとくうとくうとくうとく  
 のとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく  
 いうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく  
 ちとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく  
 一とくお付とくゆとくとくうとくうとくうとくうとく  
 けつとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく  
 主君乃<sup>てい</sup>海<sup>せん</sup>前よとくうとくうとくうとくうとくうとく  
 くとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく

あまにまのくしをばなせうあなぞと思ひん  
 むのあれ老お歌人のゆきさきこころをさし  
 此のあはしくもさすまわいのしり歌よかけ  
 中流のひたんのきこえり流りばあなを  
 ようそののしりうけいもねいざんざんあ  
 ざうくあなの中らうとあなを老お歌人  
 流ゆゆよの老お歌人ぞく又あなれが同歌の  
 けいねいざんざんげんざうくあなのをぞと  
 ひりうしあなあしとあなをさしあなを  
 けいあなをのりうりあなをさしあなを  
 也設一哉うらうりあなをさしあなを

そあなをさしあなをさしあなをさしあなを  
 後よりあなをさしあなをさしあなを  
 なあなをさしあなを

ひりうしあなをさしあなをさしあなを  
 又あなをさしあなをさしあなをさしあなを  
 あなをさしあなをさしあなをさしあなを  
 さうしあなをさしあなをさしあなをさしあなを  
 人こりうしあなをさしあなをさしあなを  
 こりうしあなをさしあなをさしあなをさしあなを  
 あなをさしあなをさしあなをさしあなを  
 ろりうしあなをさしあなをさしあなをさしあなを

りぬやうにけしんくちまひんくまうなりて  
 三人ありまひんくまうにけしんくた  
 ちあつた文書にまひんくまうの三人  
 名の本法にまひんくまうを寺のつとめ  
 したまふまひんくまうのたしんくまう  
 なく思ひし

りぬやうにけしんくちまひんくまうなりて  
 三人ありまひんくまうにけしんくた  
 ちあつた文書にまひんくまうの三人  
 名の本法にまひんくまうを寺のつとめ  
 したまふまひんくまうのたしんくまう  
 なく思ひし

りぬやうにけしんくちまひんくまうなりて  
 三人ありまひんくまうにけしんくた  
 ちあつた文書にまひんくまうの三人  
 名の本法にまひんくまうを寺のつとめ  
 したまふまひんくまうのたしんくまう  
 なく思ひし

わやまらとらうりしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 とらうりあつてしんれあわうらんとらんよん祇科

むの天のなめしんれあわうらんとらんよん祇科  
 つるも又田畑とにんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科  
 ろろあつてしんれあわうらんとらんよん祇科





等このうへり又または都みやことすまのまぬ人わりのこと  
 づつりよひりちりありとすまのひんか  
 ひのひんたすまのひん又またはあがりあぐ  
 ちゆよすまのひんか又またはあがりあぐ  
 病やまと生なまし力ちから本もと破やぶ滅めつまろしとまじりあ  
 うまじりまろしとまじりあ  
 うぶらざりて儒ぶ多た外ぐわい多たとすまのひん  
 世よを想おも懐くわい生なま安やすまろしとまじりあ  
 ひろしとまろしの今いま時とき垂たろしとあの人ひといふま  
 つひたすまろしとまじりあ  
 うんたすまろしとまじりあ

人ひとも又または美みとすまろしとまじりあ  
 ちとんたすまろしとまじりあ  
 まろし表うら裏うら控ひか房ぼうのん又または  
 らひあうろしとまじりあ  
 ああれよとすまろしとまじりあ  
 びろしとまろしの今いま時とき垂たろしとあの人ひといふま  
 何なにもあつてちゆよとまじりあ  
 者もののあつとすまろしとまじりあ  
 あびんとあつとまじりあ  
 うらあつとまじりあ  
 うらあつとまじりあ





二尺三寸をりんよきりよくれ紀別大御云々  
 府ありしとさうも多かりぬしは衣を改定  
 乃とさうとさ出船遊後西園よかつて古き侍あり  
 心きこむらびちりしりしりあれまおゆま侍ゆ  
 ししりあつしよま云々と大賢人をも因の文  
 とし賢王渭濱とつし海老(侍)よ出給ひて  
 まれど白髪ありの翁のまごなるゆかりよま  
 りのどしとて魚とつりあづるやうの翁とあ  
 りていふ老人毎年の人の魚とつりいまがり  
 釣針はかうんぐさ餅をとりてしつれ海づ  
 ろとたづぬ給へる言てしつれ我天のあまの魚の

つつゆよきむなつり計しよまごのまごのまご  
 在の人もまがりたる釣針ぬらうらうらうら  
 れるゆいん正直ありと利根まらうらうらと云  
 のまらうら老人よまさいりありやと言てま  
 りよまらうられてりあまの文まのまらうら  
 れのひららまらんまらうらうらまらうら  
 言てまらうらまられたるの翁の翁ありま  
 つど只天下にまらうらあまのまらうら文まの  
 まらうら南奄殿の討とみまらうらまらうら  
 言てまらうらまら殿の討の海軍まらうら  
 人よそ言のまらうらまら猫の嵐まらうら









乞をまじはれむらうのしほひのさるむつと  
てあやうたふむらう

ひしう人のうらぬ道法はのさると云い念ねん不  
生れを無深むじんのらぬ永嘉えいか大師だいしの白話はくご連れんしん  
とく色しきををてて聖教せいけうももたたくく道みちくくああ歡かんめ  
ももたたくく愚ぐ俗じやく人にん賣う佛ぶつ法ぽうををつつててななるる  
とのままつつ情じやうををささりりててままのの道みち理りととのの回かい意い  
ああ一いち果くわののああいいんん下げののああいいんんははいいららるるはは念ねん  
無取むしよ宣せん乃の大邪だいじゃ見信けんしんととくくびびののああいいんんはは念ねん  
ささままびび一いち念ねんをを念ねんととつつててもも念ねんををああららししてて念ねん  
とと行ぎやうりりてて剛かう有いう念ねんととぬぬべべ一いち又また念ねんをを行ぎやうりりてて一いち念ねん

予よももととちちくくむむ乞きととぞぞよよ有いう生せいなりなりとと一いち由ゆととんん  
丹たん毒どくととああややるる

ひしう天竺てんぢくの勝軍しょうぐん孫師そんしととつつるる人にん肉典にくでん亦また典でんをを  
の通とううてて毒どくととののむむ枝えだ林りんととくくららふふははああららるる  
海かいよよちちまま乞きととくく一いち國こく師しのの信しんとと積せき八はちヶヶ國こくのの  
集しゆ中ちゆうととつつりりててききととくく一いち出しゆととききととくく一いちつつめめにに  
出しゆ給じゆりりひひてて四しつつひひ一いち下げととききととくく一いちつつめめにに  
禄りやくととららひひぬぬむむびびああららるる人にんののああららるるはは念ねんととくく一いち  
一いちししてて一いち念ねんをを念ねんととつつてて一いち念ねんをを念ねんととつつてて一いち念ねんをを  
ととたたんんととららししてて一いち念ねんをを念ねんととつつてて一いち念ねんをを念ねんととつつてて一いち念ねんをを  
ままひひつつららんんととららししてて一いち念ねんをを念ねんととつつてて一いち念ねんをを念ねんととつつてて一いち念ねんをを

あはれやうとうじしむらびもまんとぬく一生他人の  
かたうらひすら我力折れゆなりし心志うらとあこ  
つこいゆあらんともれど思慮とまらぬものこ  
かむくも神のまごごこさわれど一生我折  
と感却してまのぶごんくうまのよしまこ  
他人のまんくうまのまのあつうられとまら  
かうの世とりうらありあつうらと解あん  
とて私神とあわれ私心とらうじつああらうら  
なうまうく人もまらありそいふもあち身あかり  
小力あせくお念の幸者うまひひらあこれ  
と現世のこのああわらうらうらこのあ

と一もあつうらうらうらうらうらうらうらうら  
まうじやうもまられど罪業のこのまら  
うらうて喜挽のうらうらうらうらうらうら  
我らあまたまの業花と極心の思ひうらうて  
名利の我らあうらうじつあうらうらうらうら  
強ひあうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
あうらうらうら  
ひらうらうらのうらうらうらうらうらうら  
あうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
あうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
あうらうらうらうらうらうらうらうらうら

としして舞盤の上よりあつたあひ子とたゞ一人あつ  
 ひ子にさうに勝あかきはさうに又使つたりさうひ  
 ひり母のさうにさうにさうにさうにさうに後の某氏  
 とさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 めのよのさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 うりの町人さうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 ぶちさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 ちさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 と二粒と三文のあまのりあれたひのいひのいひのいひ  
 わり一袋のつひのいひのいひのいひのいひのいひのいひ  
 うりぬさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに

二粒のゆきさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 たまらさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 うびのいひのいひのいひのいひのいひのいひのいひ  
 ひさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 してさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 ひさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 ひさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 ちさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに  
 君乃西のあひのあひのあひのあひのあひのあひのあひ  
 具かんあひのあひのあひのあひのあひのあひのあひ  
 けおわびてさうにさうにさうにさうにさうにさうにさうに

此よりわがすさなる事とせあがらう  
 ひうさう人のさうの侍ハ格格七藏あど  
 あさうとせむと侍をれまてまてむと  
 のさうさうの侍をれまてまてむと  
 りうさうの侍をれまてまてむと  
 一礼舞あてわがさうの侍をれまて  
 ひうさうの侍をれまてまてむと  
 おさうの侍をれまてまてむと  
 格格の侍皆さうの甲さうの侍  
 鉄砲さうの侍をれまてまてむと  
 の侍をれまてまてむと

知世今言ひし事ありぞとてさうの侍を  
 ひうさうの侍をれまてまてむと  
 格格の侍皆さうの甲さうの侍  
 鉄砲さうの侍をれまてまてむと  
 の侍をれまてまてむと





してむくくう揚うのちらうよ轟とと入くらうとく  
 うらむはそもんりたり代ちを思ひひまにらる  
 ひつそくう時うらに轟あわうばうあうささぞ  
 むらうれ湯やまねぬ我物わの少野す小町こささ  
 西あたむとまううらうらうさ人あもん申  
 うらあひむくくうひてむくくう色いうとさ  
 さもつあうあうさうさうさうさうさうさ  
 ひうすまあわう人のあさあわうらう相あうさ  
 むらうささ後あれ大油あまのゆあつらうはらう  
 うらむはむくくうのゆあう秦あのお房あ宮あもこさ  
 うわわわううらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうにぬぬも夏あれどくわのやうなり  
 ぞう一日い林あのまをうらうらうらうらうらうら  
 らんづらうに八あまむらうらうらうらうらうら  
 むびさくもとくぬ小草あのたさうあうらうひ  
 ぞうくうらあうらうらうらうらうらうらうら  
 うびくむくくうすうもとのが林あとやあひてな  
 く移あもくくうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらわらわつあうあうらうらうらうらうらうら  
 むらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 草埋あ回あ碓あ若あ瓜あ田あ  
 秋葉あ隨あ風あ自あ來あ去あ  
 雲樹あ深あく諸あ鳥あ眠あ  
 実あ無あ人あ馬あ侍あ門あ前あ





色のりりあひのどくーされど武士たるのびんた  
 らうとつらびりいさそとせどぬいぢんたう  
 どつうのまといりどさうらあふれあつど  
 物毎にまんせどおごうどんそくどぶ  
 なもあつどさうをいの中さくたさよめ  
 とがぬにひりどたひよ念法のーてんそ  
 へそどひあく義理つものさうんようそ  
 けー常とまぬ汁とよの侍といさふ  
 席とあまぬのりあつあまあはあそ  
 出家百姓町人あつさうどさ女帝のうめ  
 ぬせいも回あたく侍うてハ仁義の二川と

大せのとも別々悟とてたといふ高座のこ  
 ろんせいはあてあいらのぐれあひら  
 とも仁義の二川といさうんさあふび大  
 無難さうて  
 ひーさう人のさうつらくとうさ世の人と  
 うらようさ人のまねと切者さそとつ  
 物あつとささげも別があつらうんこい  
 とさうさ初にいりくま君忠切とあせ父母  
 孝めとやま君ハ内のまにあんやとあ  
 へあさひとひよ父母ハあまよのあつてな  
 らるる昔はあつひごさあつとやわらつ  
 けつ





ろどわくをくもらうらひてくけいせき  
 せんもあつくとあわめあせとあうてあえ  
 ろそめつよあめららのわらこまうのまは  
 ひいせんあせあうとあうひい  
 ひぬんとすれがゆびされてあつるが  
 ろのぶよせんこめかうあくのあめ  
 十歳ぐらうたうがあてけい  
 うくとうらひひいあうまうくのほ  
 うんがめいこよひあうまうの何う  
 うんぞくゆびあててまうせんこめ  
 節とあひけいあうらうらうりけいあひ

のやうにわいて血ありあがく水にわいて  
 ありうらひあされがうの司を温と  
 名養の人さきのう酒あの中人うの  
 てあめうらうとあをうらうら  
 たまひらうあうとあてえとあ  
 号してたけいあうとあうらうら  
 ありうらうらとあうとあうらうら  
 とあうらうらとあうらうら  
 ひいうらうらのうらうら  
 ありうらうらとあうらうら  
 うらうらのあうらうら

とて只のうらりてしものりてしつゝ  
 とその歌うたの方かたでこれ武畧ぶりやく秘畧ひりやく計けい策さくなど  
 つまねこなひをけ方かたでしつゝすいりやうしつゝ  
 きてぶそのあつめやうめこあつてこそ又てこそを  
 たり或あるいあつてしつゝ合戦あつせんを志こころしてしつゝ  
 としつゝ人の國くにを加勢かぜを志こころしてしつゝ人の國くにを  
 皆みなあつてしつゝぜんぜんつゝあつてしつゝ  
 一ひとく一ひと或あるい戦いくさてしつゝしつゝ人の國くにを志こころしてしつゝ  
 の法侍ほつし百姓ひやくしやう町人ちやうじんを志こころしてしつゝ  
 わざりしつゝしつゝ心こころを志こころしてしつゝしつゝ  
 皆みな兵糧へいりやうなどの用もちきつゝあつてしつゝしつゝ  
 てしつゝしつゝあつてしつゝしつゝ天運てんうんとつゝり合戦あつせんを志こころして  
 ひつゝしつゝあつてしつゝしつゝ

ひつゝしつゝあつてしつゝしつゝ  
 たりしつゝしつゝあつてしつゝしつゝ  
 老おきないねすものしつゝ一ひと出でるる南なん密みつ流りゆうとつゝしつゝ  
 ともつゝれい先せん原げんとつゝあつてしつゝしつゝ  
 師しなるひ志こころ願げん百ひやく民みんとつゝしつゝしつゝ  
 けつてしつゝれいあつてしつゝしつゝしつゝ  
 力ちから原げんとつゝしつゝあつてしつゝしつゝ  
 志こころ願げん百ひやく民みんとつゝしつゝしつゝ  
 たた殺ころ害がい一ひと美み西せい遊ゆうとつゝしつゝしつゝ  
 たりしつゝしつゝあつてしつゝしつゝ

四家すのびー運卒畫さわくば屎水おくらむら  
 ち必定<sup>ちんてい</sup>く又生わる物の中よれずしりどらうあき  
 物あーいふる物とーせん業あまよりらあふ  
 ちもわるよれずしりどらうあき毒<sup>どく</sup>とありわさ  
 とあわ<sup>あわ</sup>あき業といあうど又何の用もたはひ  
 百よらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 くれらう<sup>くれ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 ち<sup>ち</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 い<sup>い</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 食<sup>食</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 も<sup>も</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ

らいあづりてととあやあまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 理<sup>理</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 業<sup>業</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 たりーあまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 か<sup>か</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 と<sup>と</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 業<sup>業</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 と<sup>と</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 ー<sup>ー</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 ち<sup>ち</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ  
 かん<sup>かん</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ<sup>あ</sup>あまらりらあ



らと背をむいてうづべーしうりひめをさむあ  
 りんちうはあつていふまじく用せむ何ういふんを  
 人さういふつゝも常よりいふまじくいふまじく  
 へてうづべーあつていふまじくいふまじく何  
 びよあつていふまじくいふまじく  
 ひよあつていふまじくいふまじく  
 してんていふまじくいふまじく  
 出されていふまじくいふまじく  
 つまていふまじくいふまじく  
 せいしうのむかれいふまじく  
 文政節や月内家あつていふまじく

ひよあつていふまじくいふまじく  
 備中様やいふまじくいふまじく  
 してんていふまじくいふまじく  
 て後つらあつていふまじくいふまじく  
 してんていふまじくいふまじく  
 命とつらあつていふまじくいふまじく  
 月が経つていふまじくいふまじく  
 や一方のどんやあつていふまじくいふまじく  
 のこすまじくいふまじく  
 出敷人信あつていふまじくいふまじく



の忠切の侍らうの如敷人のけいこくつるをねんざん  
 うらみして無ぢひされや受難なるをくもく  
 ひまらして又の如敷人もの忠切の侍とけくも  
 しりそ着の細とれ業力かごわさひりひし  
 ねし一統云とくひみ交十友しそま君もゆ  
 しくわがーのさし二平交平交よるあれん  
 ちのまきくわがーの料とあさ忠切の侍あつひ  
 遊敷せし統又切腹とあしびーしびーん  
 を統云しうと者わくを別双方とわしあ老  
 役人佐侍よもそ能とさうせ直一せんし  
 北乃の言とさるやん成敷まーゆめく如敷

人ありたひのさうさうまぐーどぞんげんつら  
 ち今あそろしと物しとせ大由云雅房  
 てと藝うしとさうべん人あり院の西あうや  
 ぶと大將よあささ中とありしりつ時は雅房  
 心と日集うしとあひりう人あつ時院の西あり  
 まらりてしりつはあ今あさまーさあそろし  
 りゆとんそゆとしりつはあささ中とやつ場  
 結よと大由云雅房うそ舞よとあさかりんそ  
 せさうたのあさささささささささささささ  
 まとあささささささささささささささささ  
 いらあささささささささささささささささ

房の日はもまたうきよきそよのしりぬれぬ  
 乃わいといふれさるるなり  
 ひいさるるのうらゝみの物とかなや時よの物と  
 ついでいさるるわれどあはれびを物いさるる  
 ついでいさるるあはれとあはれと眼とあはれと  
 なるものなりよものうらゝめいさるる  
 一いさるるなり

ひいさるるの勇ま弁右道と一者なり  
 は合戦のやういさるるなり  
 わらうの合戦のよきなり  
 らせんあはれでなまこつてあはれと合戦と一なり

よういさるるよきなり  
 よお後乃ち別もあはれ思ひいさるるなり  
 交合戦よありといふなり  
 てあはれなり  
 中よもあはれなり  
 されんあはれなり  
 たはれなり  
 ひいさるるなり  
 一いさるるなり  
 一いさるるなり



の花うく時よの秋のよららん時と思ひ秋を  
 りみらう時よの春の花うん時とらひをう  
 うしよ時よの夏らん時とらひなれあつ  
 時よの冬れえしん時と思ひあうくを  
 き時とらひ晴う時よのあうん時とらひ物と  
 あしよ時よのあうん時よのあうん時よ  
 いかしよ時よ思ひせうりあうくを  
 ぬりよたう時よあうん時よのあうん時  
 ありあうん時よのあうん時よのあうん時  
 思ひ穿くの時よのあうん時よのあうん時  
 よのあうん時よのあうん時よのあうん時

わん時とらひひわん時よの年うん時よの  
 あひ年うん時うん時よのあひ時とらひ  
 病あり時よのうん時とらひ思ひうん時よ  
 を病あり時とらひ余あり時よのあうん時  
 とらひあうん時よの余あり時とらひ病な  
 よの剛あり時よの思ひうん時よの病あり時と  
 らひ大男たう時よの小男たう時とらひ小力あり  
 時よの大男あり時と思ひ小忠切あり時よの忠切の  
 時とらひの忠切あり時よの忠切の時とらひ忠切あり  
 うん時よの忠切あり時とらひの忠切あり時よの忠切  
 の時と思ひひの忠切うん時よの忠切うん時と



〜〜山伏言て曰我の年〜〜とけ年月を  
ふ来乃道よ〜〜ん〜〜ん〜〜ぬ新の年〜  
あ〜あひあんの〜〜と〜〜のわ〜と〜〜ひ中まの  
ぶ〜〜のけ〜と〜あ〜けあ〜の客〜と〜道〜  
威〜と〜の〜は〜後乃中あ〜不動の像と〜  
あ〜一祈〜の〜あ〜を〜忽〜  
えんを〜して〜せ〜〜極内像の〜〜  
こ〜れ〜り傍言て曰〜も〜  
の〜の〜の〜の〜の〜の〜  
と〜ん〜ま〜び〜一観念は〜  
水と〜一〜て〜の〜あ〜ら〜え〜ん〜ぬ〜も〜さ〜や〜と〜

山伏〜と〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜  
の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜  
物と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜  
り〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜  
ふ〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜  
つ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜  
ら〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜  
い〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜  
と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜  
の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜  
と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

てらむにたりしむらびとありしむらび  
 ひしむらびのむらび侍とて金部とありしむらび  
 おかしのむらびを頼みおかしとありしむらびのむらび  
 白のむらびを是内の者いしむらびとありしむらび  
 もあしむらびとありしむらびのむらびのむらび侍  
 びむらびとありしむらびのむらびのむらび侍  
 のむらびのむらびのむらびのむらび侍  
 してむらびのむらびのむらびのむらび侍  
 りむらびとありしむらびのむらびのむらび侍  
 ろりむらびとありしむらびのむらびのむらび侍  
 してむらびのむらびのむらびのむらび侍

うしむらびのむらびのむらびのむらび侍  
 はありしむらびのむらびのむらび侍  
 侍がむらびのむらびのむらび侍  
 月ありしむらびのむらびのむらび侍  
 事とありしむらびのむらびのむらび侍  
 つたありしむらびのむらびのむらび侍  
 むらびとありしむらびのむらびのむらび侍  
 中中のむらびのむらびのむらび侍  
 侍ひてありしむらびのむらびのむらび侍  
 むらびとありしむらびのむらびのむらび侍  
 切しむらびのむらびのむらびのむらび侍

あらまてしきしきと付かぬにいふものもなり  
 志しつゝ何の由らうゆめゆめとやあつすそり澄ひ  
 眞の守まも西宗云の一代のまはりまはり  
 たやあつすやうききおまらぬの由らうまはり  
 てゆめゆめがうとらふとらふとらふとらふとらふ  
 くありしきして仁義にまじりてしきしき  
 力よとあつしきしきとらふとらふとらふとらふ  
 じし五列ありらの由おんとらふとらふとらふとらふ  
 四つもの義隆こうりゅうとらふとらふとらふとらふ  
 たつとらふとらふとらふとらふとらふとらふ  
 ちつとらふとらふとらふとらふとらふとらふ

てゆめゆめありおとせ

眞まこと女のまはりしきしきとらふとらふとらふとらふ  
 とらふとらふとらふとらふとらふとらふ  
 ひしつゝ何の由らうゆめゆめとやあつすそり澄ひ  
 眞の守まも西宗云の一代のまはりまはり  
 たやあつすやうききおまらぬの由らうまはり  
 てゆめゆめがうとらふとらふとらふとらふとらふ  
 くありしきして仁義にまじりてしきしき  
 力よとあつしきしきとらふとらふとらふとらふ  
 じし五列ありらの由おんとらふとらふとらふとらふ  
 四つもの義隆こうりゅうとらふとらふとらふとらふ  
 たつとらふとらふとらふとらふとらふとらふ  
 ちつとらふとらふとらふとらふとらふとらふ



かりとあまはとてあおもくつて音相とぬくあ  
らやとれくもまもくつに候よたつてく  
ぬれぬれ

ひくう人のまの軍はとつぬ合戦の時斗  
のまれやうま當人か思つてつて  
あつとまもくつては侍よりぬ情をの思  
まをわくつて思ひ付て勇命  
あまぬやうまもくつ上侍の味た  
と第一の軍はとつ

ひくう人も合戦を大急大急のか天道はと  
り候てとまもくつ人のまの天道のた急大急

れぬれつて曰上の聖賢佛祖とつぬ  
親知を醫志飲食のたつ水大合名草本莫  
鉄山水田跡ありとわくつぬお相合人方のゆり  
わくつて天道のた急大急あつてわくつ  
そむなる人のまのやうあつてつてわくつ  
いんまのあつて天道はと急大急あつてつて  
つれぬれつて忠者とわくつて聖塔とわくつ  
あつてつて忠者とわくつて聖塔とわくつ  
とつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
やうなつてつてつてつてつてつてつてつて  
つてつて伯夷寂斎はつてつてつてつてつて

さらぬれども天下をわたり給ひばいふんをいふとされしを  
 大慈大悲の天道よりかこむらんをせしむるはあ  
 ひしうらん人のうらみ慈恵のくまひあはれども  
 何れりりりていふもあつてまあつてらおわり  
 ぬしうらんをたてしむるはひんりては又  
 第一やうとせしむらんをうらみせぢひおわひて  
 ろしすうあつていふれにむらうとせしむらんを  
 目みしむるはあつていふもあつてまあつてらおわり  
 らしむるはあつていふれにむらうとせしむらんを  
 つしむるはあつていふれにむらうとせしむらんを  
 又い田つくりしむらうとせしむらんを

いふれどもあつていふれにむらうとせしむらんを  
 又い田つくりしむらうとせしむらんを  
 つしむるはあつていふれにむらうとせしむらんを  
 らしむるはあつていふれにむらうとせしむらんを  
 目みしむるはあつていふもあつてまあつてらおわり  
 ろしすうあつていふれにむらうとせしむらんを  
 第一やうとせしむらんをうらみせぢひおわひて  
 ぬしうらんをたてしむるはひんりては又  
 何れりりりていふもあつてまあつてらおわり  
 ひしうらん人のうらみ慈恵のくまひあはれども  
 大慈大悲の天道よりかこむらんをせしむるはあ  
 さらぬれども天下をわたり給ひばいふんをいふとされしを

なるやわわりのこころいふあはれの中終るべし  
 畜毒のありぬとつこころいふに侍のあは  
 生れつらんが終るひとたくしてこれ町人となら  
 ぞうそは侍と生れあつる生れ毎にやとてぬ  
 申しならざるもいふの町人にあつても  
 の者ごらんと北人となりてははれあさゆ  
 うとて侍勝を神ま目神八幡大菩薩の心鏡  
 よいそれ未世濁乱の時よいそいより武家とやまひ  
 侍が難人よりと出あふ書子とりり莫名歎とく  
 ひ俗人の知ぶそとして佛神道とてことごと  
 うとて侍が難人とあはるも千室とてつる名もが

養あり養人かういふありうらうらまはれあさぬ  
 一とみこり永くして末を思と右くの  
 しくりりゆ毒のこころぬてうとて人くくえれ  
 利物よまうひふれよあつるは人むいんやび  
 たのこらぶとせんも一あつるこころひあらんや  
 ねんぬ又神とてすこやうなるこころと北人  
 よいといふひのらとありた一文一とつる  
 是づこびをこころいんが養毒とてせとんがら  
 りのになんべーとあつるうとあつるあつる  
 とのもて田畑と作りあつるあひをこころい  
 一とて痛師たぬべーとあつるま下つる



まよひてうつろひしころのあはれありし時ハ筆ぞうつせ  
て<sup>たま</sup>新<sup>た</sup>ううつろひしころはまがしよの葉のわらわらとあは  
かがし秋<sup>あき</sup>はよらふゆらやうはけふのうらやうや  
つゆらふゆらふゆらうつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり  
思ひ持とつりしころにうつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり  
るかなとつら<sup>あは</sup>しのころに  
ひしころのうつろひしころの侍よる者ハ月とくらんや  
月とつら<sup>あは</sup>しの物毎<sup>ごと</sup>よゆらんやうつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり  
んしころにうつろひしころにうつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり  
師の口弁に

あつたりたうとくそんちつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり

まよひてうつろひしころのあはれありし時ハ筆ぞうつせ  
て<sup>たま</sup>新<sup>た</sup>ううつろひしころはまがしよの葉のわらわらとあは  
かがし秋<sup>あき</sup>はよらふゆらやうはけふのうらやうや  
つゆらふゆらふゆらうつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり  
思ひ持とつりしころにうつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり  
るかなとつら<sup>あは</sup>しのころに  
ひしころのうつろひしころの侍よる者ハ月とくらんや  
月とつら<sup>あは</sup>しの物毎<sup>ごと</sup>よゆらんやうつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり  
んしころにうつろひしころにうつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり  
師の口弁に

あつたりたうとくそんちつろひしころに不便<sup>びんべん</sup>なり

あつとりの申すをねがひしらんあつとりの  
かんごの金指のたくりんはあつと

ひしとりの人の物さうめんこなりてあつとびら  
けまごさうめんこなりてあつとびら  
さく文をさうめんこなりてあつとびら  
かふくしとりの人さうめんこなりてあつとびら  
くぬ侍の梅にわさざりめつとりの人さうめんこ  
醫者ゆめしとりの人さうめんこなりてあつとびら  
はとさうめんこなりてあつとびら  
次は料理美のあつとりの人さうめんこなりてあつとびら  
気血とりの人さうめんこなりてあつとびら

ひしとりの人の物さうめんこなりてあつとびら  
さうめんこなりてあつとびら  
さうめんこなりてあつとびら  
徳あれ陽報さうめんこなりてあつとびら  
あつとりの人さうめんこなりてあつとびら  
はしとりの人さうめんこなりてあつとびら  
酒は酔さうめんこなりてあつとびら  
さうめんこなりてあつとびら  
さうめんこなりてあつとびら  
さうめんこなりてあつとびら

しとらふめ何よそひくのひらんや相又あまはれ時  
移じしとあわらむるもびくのうらひ思ひ出  
しとらふめあわらむるもびくのうらひ思ひ出  
しとらふめあわらむるもびくのうらひ思ひ出  
もあはれいふいふもあはれいふいふもあはれいふ  
な—とれいぬいふいふもあはれいふいふもあはれいふ  
め—とれいぬいふいふもあはれいふいふもあはれいふ  
く—とれいぬいふいふもあはれいふいふもあはれいふ  
とありていふあはれいふもあはれいふいふもあはれいふ  
我の時あはれいふいふもあはれいふいふもあはれいふ  
う—とれいぬいふいふもあはれいふいふもあはれいふ

忠切の道をつくりんそあつても常あつてもあつ  
づ—びまうくも此のつくりんそあつても常あつてもあつ  
ての臧と火さしんそあつても常あつてもあつ  
し—あつんのつくりんそあつても常あつてもあつ  
四書七書は皆和漢の集い余の弁れたるもあつ  
まうとらふめあわらむるもびくのうらひ思ひ出  
しとらふめあわらむるもびくのうらひ思ひ出  
しとらふめあわらむるもびくのうらひ思ひ出  
つ—とれいぬいふいふもあはれいふいふもあはれいふ

ちうちうあつひい又我もそをさうさうめ我もそをさう  
 めさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 我もそをさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 してさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 我のかうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 いてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 ひさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 の花車なげさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 直ね險げんのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 龍りゅうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

或は花さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 たりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 なるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 は花さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 或は遠とほさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 うらねさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 或はさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 もあさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



或いと仰りありてさう村毎のちちづりさ月夜か  
 えあふぬよもさうさう梅さうさうりびさうく  
 とさうびさうさう梅さうさうのねびさうさうさ  
 ねの女わらねを路のちさうさうあつんのああぞ  
 物さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 志のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 めんさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 どの梅さうさうのさうさうのさうさうさうさうさ  
 がさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 物さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 うらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

ありあがり眼さうさうさうさうさうさうさ  
 ひ物さうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 たりつら一類のさうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 づさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 うらさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

りらうとのわいふらうつりて今らう境の  
 んてわのどくの無よとあひらびてた  
 あひてふのよとふて思ひもふ別とら  
 ひらう人のそのつらう天下よおつてつら  
 あいよふはなとらうのさうわあふらうあて  
 うみらぬ候あわどもとらうのらあひくの邪  
 こさあつとあひもそれだはなとてあひうん  
 して邪無あつとらういまづはな乃こまよと  
 んぞんぢあさゆらう一ともはなとのこまよと  
 んぬはなよあつてはは儒乃よあわて儒は外  
 んよあわて神はとて唐去天竺我の三國通はの

けのなをそれと水よ去のなと書て法とよめ  
 中と水のなと去のなとつらうとらうのなと  
 志うと水と去のつらうと文と水と去のつら  
 文のつらうに陰陽のなとあの中陰水の二のな  
 濁氣と名付てあひうてけらうとらう也陽  
 火の二の氣の清氣とあひうて清くすこらう氣  
 じんらうに又陰陽水火乃氣あり火の陽氣に  
 してん性<sup>せい</sup>の清氣とて清くすこらう氣と又あひ  
 陰氣とて腎性<sup>じんせい</sup>の濁氣とてあひうて  
 けらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう  
 氣の水の腎性<sup>じんせい</sup>別<sup>べつ</sup>家忠<sup>けいちゅう</sup>念りあつての強心

こそ歌人のあはれを思ふ心とてりしのれはまはるわいひ  
 つらまはるつらな心とてりしのれはまはるわいひ  
 斗いぬしてまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 一ぬまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 格のあはれを思ふ心とてりしのれはまはるわいひ  
 こそまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 てりしのれはまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 先かまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 よはまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 けりあはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 つらまはる心とてりしのれはまはるわいひ

けりあはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 つらまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 斗いぬしてまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 一ぬまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 格のあはれを思ふ心とてりしのれはまはるわいひ  
 こそまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 てりしのれはまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 先かまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 よはまはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 けりあはる心とてりしのれはまはるわいひ  
 つらまはる心とてりしのれはまはるわいひ

はいさうりとううかりそし牛とうさうさういざわいぞ  
のうくまきこうふううううううううううううううううう  
もふの仕りやうううううううううううううううううう  
ふも圓の仕玉とさううううううううううううううううう  
りあううううう侍上將とさうううううううううううう  
代友あとうううううううううううううううううううう  
ひううううううううううううううううううううううう  
ううううううううううううううううううううううう  
ううううううううううううううううううううううう  
あいうわがわうううううううううううううううううう

わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが

可笑言 卷五

うらまひの思ひなりがびごあひこら  
 新がまゝのべーね又年がうりてあゝするも  
 あゝぬとまゝ人のりも愚痴暗んの方うて  
 一旦さゝしうらまひを家に聖賢の務わり  
 わらうものいふ文とらわいの物白の出く世界と照  
 るがごとく老るる老が学文とらわいの物に  
 挑灯あゝとらわいてけがごとく又朝はなとらわ  
 くとらわいとらわいとらわいとらわいとらわいとらわ  
 とらわいとらわいとらわいとらわいとらわいとらわ  
 してけがごとく年がうりてあゝするも  
 ひがまゝとらわいとらわいとらわいとらわいとらわ

新がまゝのべーね又年がうりてあゝするも  
 あゝぬとまゝ人のりも愚痴暗んの方うて  
 一旦さゝしうらまひを家に聖賢の務わり  
 わらうものいふ文とらわいの物白の出く世界と照  
 るがごとく老るる老が学文とらわいの物に  
 挑灯あゝとらわいてけがごとく又朝はなとらわ  
 くとらわいとらわいとらわいとらわいとらわいとらわ  
 とらわいとらわいとらわいとらわいとらわいとらわ  
 してけがごとく年がうりてあゝするも  
 ひがまゝとらわいとらわいとらわいとらわいとらわ

うろ思ひひらりぐらふあつてひらりまふあつて  
— 菓子や陶器めとらつて 貴人の物にやふいせぬ  
— てきのよしのねあり—とあつてあつて  
まらつてあつてあつてあつて  
ひ— 芝野の一本松高しつゝ 須磨までとせり— 時  
うろ人道とせりあつてあつて— 曰かりしあつて  
と百々とせんぬあつてあつて— あつてあつて  
— さあ— あつてあつてあつて— あつてあつて  
あつてあつて— あつてあつて—  
ひ— あつてあつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつてあつてあつて— あつてあつて—

うろ菓子のかき言ふはあつてあつて— あつてあつて—  
ひのの— あつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつて— あつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつて— あつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつて— あつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつて— あつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつて— あつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつて— あつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつて— あつてあつて— あつてあつて—  
あつてあつて— あつてあつて— あつてあつて—

可笑言 卷五

ひし武州<sup>ぶしゅう</sup>の関<sup>せき</sup>らうさ市<sup>いち</sup>そ初<sup>はつ</sup>去<sup>しよ</sup>の<sup>の</sup>比<sup>ひ</sup>ひ  
ん<sup>ん</sup>らう<sup>らう</sup>わ<sup>わ</sup>ひ<sup>ひ</sup>連<sup>れん</sup>勃<sup>はつ</sup>と<sup>と</sup>志<sup>し</sup>行<sup>ぎやう</sup>り<sup>り</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>一<sup>いつ</sup>敷<sup>しき</sup>が  
と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>也<sup>や</sup>釋<sup>しやく</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>て

まよ<sup>まよ</sup>わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>関<sup>せき</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>み<sup>み</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>處<sup>ちよ</sup>か

ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>押<sup>おし</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ん

ひし<sup>ひし</sup>それ<sup>それ</sup>が<sup>が</sup>親<sup>おや</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>は<sup>は</sup>終<sup>しゆう</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
の<sup>の</sup>そ<sup>そ</sup>ど<sup>ど</sup>り<sup>り</sup>そ<sup>そ</sup>合<sup>がひ</sup>戦<sup>せん</sup>め<sup>め</sup>あ<sup>あ</sup>し<sup>し</sup>何<sup>なに</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>老<sup>らう</sup>功<sup>こう</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>  
か<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>武<sup>ぶ</sup>さ<sup>さ</sup>よ<sup>よ</sup>お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>じ<sup>じ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>あ<sup>あ</sup>て  
細<sup>こま</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>を<sup>を</sup>対<sup>たい</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>始<sup>はじめ</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>一<sup>いつ</sup>く<sup>く</sup>は  
わ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>み<sup>み</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>を<sup>を</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>  
志<sup>し</sup>先<sup>せん</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>志<sup>し</sup>一<sup>いつ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>サ<sup>サ</sup>死<sup>し</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>一<sup>いつ</sup>く<sup>く</sup>一<sup>いつ</sup>

さ<sup>さ</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ど<sup>ど</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>て<sup>て</sup>終<sup>しゆう</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>ひ  
て<sup>て</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ひ<sup>ひ</sup>又<sup>また</sup>な<sup>な</sup>合<sup>がひ</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>名<sup>な</sup>也<sup>や</sup>が<sup>が</sup>れ<sup>れ</sup>  
ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>名<sup>な</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>法<sup>はふ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>わ<sup>わ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>  
一<sup>いつ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>ん<sup>ん</sup>ど<sup>ど</sup>せ<sup>せ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>  
わ<sup>わ</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>げ<sup>げ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>  
色<sup>しき</sup>軍<sup>ぐん</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>等<sup>とう</sup>見<sup>み</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>押<sup>おし</sup>

ひし<sup>ひし</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>  
た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>  
お<sup>お</sup>べ<sup>べ</sup>ー<sup>ー</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>  
か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>  
中<sup>ちゆう</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>

とされどけり白をうしては物とせりいさるぬ也  
 相違ち方の吾はらぬぞ一皆人毎は其は月また  
 ぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 ちあひうらとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 たくうとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 然の相合の時とせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 其はの月またぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 ゆくは然の相合の時とせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 わとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 ぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 目とせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ

あさうてその文持致つのが鉄炮などおづか  
 ぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 一やわろづ一天下の上年といわれりうらりハ  
 筋一とせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 三上四姓又カ六端七盗八害とせりぬとせりぬとせりぬ  
 うとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 ぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 一書めい金ぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 二十ぬまのぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 七ぬい何とせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ  
 三上とい上年とせりぬとせりぬとせりぬとせりぬとせりぬ





の中から百の月をくらとらぬ一  
 ひしう人のちういさも世中の人のかんこを  
 くらたさ難しとあかりをわらなれつれまづらなり  
 母女のあまのぐらまううぬのおうこのまひひの極  
 乃ありそこのい出まのやうなまに倍のりつれず  
 さいこうもばんかごをれくのなまのひびくぬ  
 奄る徳大將の口よとらうかぬも或いはさいこめ  
 などののそあう言やせんすとすこののそ身よ  
 破滅し又後侍をくらたさけ強切をやう  
 まらゆとこののそ身よ破滅し又まゐるのそ  
 わるが身連新とすこののんで身よんやう

或いはあうのそむわのなとすこののそむわの  
 ねよたがううされて身よんやう一又金ねを  
 ひさかり舞盤とすこのんで身よんやう  
 じしうのうのそ東坡とらう侍人をくらたさ  
 ころんゆとすこのそつあうまてはひり  
 んとらうゆと念と他まうらうらうらうらう  
 もらうあててまうのそらうらうらうらう  
 の四男のうのそ終とらうらうらう  
 ひしうう人のちういさも世の物とらうらう  
 てうあひせんも修くひ牙あう一先父母と  
 一めらう君妻あひ先才親親他人畜類を教虫

のたぐい草本まきとてそのひもあつて  
 父母といわくわくしてまわまりとめ  
 とつやわくわくしてまわまりとめ  
 つくわくわくしてまわまりとめ  
 わくわくしてまわまりとめ  
 一とわまりとめ他人とわくわくして  
 て言教を教ふれたらひ草本まきと  
 ちうの世方の人これ父母とて  
 主君とてそく兄弟とわくわくして  
 人とわくわくしてめとてそく草本  
 本まきとわくわくしてたゞし父母  
 のたぐい草本まきとてそのひもあつて  
 父母といわくわくしてまわまりとめ  
 とつやわくわくしてまわまりとめ  
 つくわくわくしてまわまりとめ  
 わくわくしてまわまりとめ  
 一とわまりとめ他人とわくわくして  
 て言教を教ふれたらひ草本まきと  
 ちうの世方の人これ父母とて  
 主君とてそく兄弟とわくわくして  
 人とわくわくしてめとてそく草本  
 本まきとわくわくしてたゞし父母

親のちうの草本まきとてそのひもあつて  
 わくわくして父母といわくわくして  
 うまきとてわくわくして後氣とて  
 いらんとてわくわくしてそのひもあつて  
 父母といわくわくしてそのひもあつて  
 ちうの世方の人これ父母とて  
 主君とてそく兄弟とわくわくして  
 人とわくわくしてめとてそく草本  
 本まきとわくわくしてたゞし父母

へん人様いひあがりしは或いそごうがわりのひそ  
 れたりとつらうくはてしなくしんやうさうかを  
 けいぬまうにけいひらめりてゆくりのいそ敷虫  
 のたがひをもそくして、おきよへてとくさわれんこれ  
 ひしをたうらうまうあしにたふしてあし様  
 のおきよへてあさあしを野山の木末草村  
 のおきよへてあさあしを野山の木末草村  
 ーゆくりのいそ敷虫のたがひをもそくして、おきよへてとくさわれんこれ  
 めてけいぬまうにけいひらめりてゆくりのいそ敷虫  
 のたがひをもそくして、おきよへてとくさわれんこれ  
 ひしをたうらうまうあしにたふしてあし様

たらん人のれらられあわれんゆりのいそら  
 ののいそらられあわれんゆりのいそら  
 めたりとつらうくはてしなくしんやうさうかを  
 ひわびいそらられあわれんゆりのいそら  
 まうあしにたふしてあし様  
 さへ余らうあさあしを野山の木末草村  
 うまうあしにたふしてあし様  
 かわりてあしにたふしてあし様  
 めたりとつらうくはてしなくしんやうさうかを  
 せんごうさうかをせんごうさうかを  
 せんごうさうかをせんごうさうかを



一いんよあび細とさささううとくあうるを  
 うくさく人と目刺んううくさく目刺る  
 めひさくさあねいどん大敵ぬのああう  
 じうさう人のさう仁義の勇者血氣の勇者え  
 侍乃剛なるも大あうべうまが仁義れ勇者  
 とさういひあうと義理つうふあわつてああ  
 乃理ああさうううて活達あれどあさう  
 命とさうつうゆいああ物乃救させびさうあ  
 んさうあ指さうて怪病ありとあさう  
 何とも思ひび又さううくさう國を救う大剛の人  
 うとあああさうさう何れ思ひびあさうさう

一さうやういあいあひ我さうさうさうさう  
 とあさうあびさうさうの目自さうさうさう  
 乃人あらあさうさう忠切あうさうの人の國さ  
 のはさうとあさう大將とさうべう又血氣の勇者  
 とさういあさうの働さうさうさうさうさう  
 さうさうさうてさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさう救のさうさうのさうさうさう  
 りび大剛強さうさうのんさう救さうさうさう勝  
 さうさうさうのさうさうさうさうさうさう  
 じうさう人のさうの者大將の陣とさう人救さう  
 武畧知畧計算さうさうのてさうさうさうさう









大の男の力ありてあぐさ力さしちうひのあ  
 人のたぐいあらうらそわきまけいせとわざり  
 じひあつりまふぐうんちんのびいひの  
 人のふさしとい海割りしてあまの力と  
 りるを命とあし船とあのびいりまぢぢ  
 であつてい力といままど命とあしす船と  
 ろまめいりまめいれどそま後世の帝  
 願羽とよさ大將ときまわらびまむせし  
 どもうううううううう道の人もあれど  
 侍とんぬれままどまあまうて又宰相  
 一あうううううううううの者大將あ

つてんまのまもあつらんまうが葉の  
 名々の侍とよ万人の中うらまひあれ  
 の内よ万人の大將とあまれ七十余の  
 名を天下にあつて一威とあひつあま  
 固まてあての長安の帝とあまがうあ  
 つまのあまの者とあしあまのま  
 つりれりりけいあまのま又男帝とあ  
 まのまんとあてままううううあ  
 まあんとあてままうううあ  
 ひううう人のまううううのまあま  
 善悪の目利は大切なり

の老出敷人方まよそい皆人いごとくも結ん  
 きたらしくおもしろいとあるまじき人あるも  
 たのりさかりなまじき人又なまじき人さう  
 あひげのまじき人さうなまじき人さう  
 十人か五人までいれよと云ふ人さうなまじき  
 とのさあまじき人さうなまじき人さう  
 さうなまじき人さうなまじき人さう  
 じうさう人のさうなまじき人のさうなまじき  
 親侍成べしと云ふもさうなまじき人のさう  
 と云ふ人もさうなまじき人のさうなまじき  
 やさうなまじき人さうなまじき人さう

かなりおもしろく飽くるよさうなまじき人さう  
 けさで侍なまじき人さうなまじき人さう  
 賢代の内さうなまじき人さうなまじき人さう  
 まじき人さうなまじき人さうなまじき人さう  
 田舎町さうなまじき人さうなまじき人さう  
 さうなまじき人さうなまじき人さうなまじき人さう  
 まじき人さうなまじき人さうなまじき人さう  
 まじき人さうなまじき人さうなまじき人さう  
 とも侍が侍を執りてさうなまじき人さう  
 とも侍が侍を執りてさうなまじき人さう

可笑言 巻五 七十三

の後人の中ゆきき好よあやうにんあむの老  
 うらあむのいさむいさむあむのいさむのいさむ  
 ろりよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 門めたるすこ戸よと海より天よあよとてあむの  
 ろりよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 まりよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 あむのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 そむのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 む思むあむのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 こあむのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 宰人よのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ

宰人よのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 ろりよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 あむのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 ろりよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 ひりよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 ととれよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 天人よのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 中三層よのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 たるよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 らりよのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ  
 あむのいさむのいさむのいさむのいさむのいさむ



つぎにたよたよとさあつまひきんごうのうとせお  
あじむらひにいづりおららひのほのまひびの  
見らあうらんよのまひびのまひまひまひまひ  
よまごそせらうんごう一舟一ちうらんまひまひ  
わー我またせらあまのまひまひまひまひまひ  
やらんごんねんごうまひまひまひまひまひ  
わーまひまひまひまひまひまひまひまひまひ  
一暇ごまひまひまひまひまひまひまひまひ  
我暇よりまひまひまひまひまひまひまひまひ  
はくまひまひまひまひまひまひまひまひまひ  
まひまひまひまひまひまひまひまひまひ

じうさう人のまひまひまひまひまひまひまひ  
あら茶入茶挽古新ありまひまひまひまひまひ  
あつらんまひまひまひまひまひまひまひまひ  
一してひまひまひまひまひまひまひまひまひ  
又在中の侍よすまひまひまひまひまひまひまひ  
有罪とあまひまひまひまひまひまひまひまひ  
わらごうまひまひまひまひまひまひまひまひ  
得失は吟味わらごう  
まひまひまひまひまひまひまひまひまひ  
とらる賢良まひまひまひまひまひまひまひまひ  
まひまひまひまひまひまひまひまひまひ

める民とあるありの交とのこまひけき  
 隠しされけりつは後れぞとてさるるまことり賢  
 人とまひのこころんとありむまれば郭隠よ初  
 金取とたくりんよらていんまのたうのたう  
 あるべとさるる毎どの賢人ぞつこころそあ  
 の帝も賢人とさ用ひて臣とあて仁義とあり  
 んとそたとそ郭隠つまのそとさ人  
 然りあらんやわさくそと大賢小賢のそとぞ  
 素ありありまらべとつりぞは口そとつり賢人を  
 移しひ移しよれば郭隠とさるるそとつり賢  
 人を思ふつとやうハ章也内り郭隠とつり小賢

あつとさるる人か知れりどは元さあといかや  
 云ありとれたたことつりやべと小賢ぶあも  
 とありつとといんや大賢よありそととわひ  
 半とひとさるるべとつり帝さるるといん  
 あつとさるるまはけつらつととさるる大  
 大官とわと人出貴然あつとととわれそわん  
 のととつり國のた賢小賢とつりまらつりあつ  
 代万民とさるるまはけつらつととさるる大  
 代万民とさるるまはけつらつととさるる大  
 あつと人けつらつととさるるまはけつらつと

給ひて内内乃法侍のまへにお急よきころてされ  
くは急いそきをわへ情なさけをのりしつらりて  
もろく徳國の法侍ほうじ宰らう人じん法義ほうぎ百姓ひやくしやくのくまも  
うぶらよまらりありまらりてお急よきころつらひ  
國くに中ちゆうのぶらひひ百姓ひやくしやくゆゑなりて百々人國くにを  
たり四代長人ありてされ  
昔むかしより人のまらりつらひのゆゑ乃老出らうしゅつ歌うたをまらり  
ゆゑも若人のゆゑもまらりてひひそまらりて  
何なにのゆゑもこれありてまらりて利り給たまひありてひひ  
給たまふさわかきも侍百姓町人じやくしやくちゆうじんまらりてまらりてあり  
速すみ急いそきもらりてありてまらりてまらりてまらりてありてありてあり

めたりとてやまきよき若人のゆゑとまらりて思ひ  
まらりてなむ法侍とまらりて町人百姓のまらり  
まらりてまらりてありてありてありてありてありてあり  
あがりやうは接かひ法ほうをまらりてありてありてありてあり  
ひひまらりてありてありてありてありてありてありてあり  
甲か一いち括くわつなりてありてありてありてありてありてありてあり  
ありてありてありてありてありてありてありてありてあり  
細多こほひまらりてありてありてありてありてありてありてあり  
相あいの用もちのまらりてありてありてありてありてありてありてあり  
まらりてありてありてありてありてありてありてありてあり  
ありてありてありてありてありてありてありてありてあり



ひろしらの時勢よまはる人びと越後のこと  
 らに能細仕りの時あまりのゆよ又よとれ老  
 親母よ中あられあ若若霜辛とちのぶおらる  
 けらがりのいとあまのわつてく武列に城のぼり  
 むれやうくうひ出くま大ざりつらりあま  
 あぐり上るてつてそそあくは國あつて  
 なるもば口利教よあうとらうてあま  
 毎ちやまてつてそそあまのびまもつて思  
 あれど義経とちうと結白の花わたりりふ  
 男さこのうまわまてつてつて思ひつら  
 るらあまよまらうとひんあてらうの海女縁ざりあ

ともせつあれど高野の布つあまよ右筆下せよ  
 にありーとあわらうとーとーとる花の何よりあ  
 てあーとあーとあーとあーとあーとあーとあ  
 あく人の右筆下せんともいりん又ちあうらぬ  
 ち一回あまてつてつてつてつてつてつてつて  
 ちよまてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 金糸あまおつての上年おらあそそ一も隠居ま  
 ちいひひあまてつてつてつてつてつてつて  
 の隠居とりいひあう一賢者の隠居そそ賢  
 者のりんあまてつてつてつてつてつてつて  
 ちよまてつてつてつてつてつてつてつてつて

隠居して大國大官とありてはまじき事なるを世より  
 知ぬもわり又我と昔人とを知らずゆり人たるに  
 ゆりたりありわくたの毒らよまじりるまけりし  
 ことわりありしむらりてはたかきうあひ用りし金  
 ませりし志とくく海をいかに隠居するもあり  
 又天下をいれりしごとく山陰海老も山賊海賊  
 のふ道敷回すすしうし時よる城下の町よおそ  
 わさあひさしきことし命とつらぐ隠居もあり  
 又毒らすのびりてあさあひ穢もあせりし時  
 門敷とつて一或い素ともれ或いぬの代官たどと  
 色作りし一役は布とくく隠居もありし事と

ごとくも方も右名中一つりよ力とありし命とま  
 たくしせらるる事とくくししししししし  
 ひしししししししししししししししししし  
 見やうしししししししししししししししししし  
 剛なるも持病なるも利益はたなるも愚い  
 ありしとあつししししししししししししししし  
 たりし事とあせりししししししししししししし  
 とはれ小氣や氣根あさましくつてあせりししし  
 りあつしししししししししししししししししし  
 立約たりししししししししししししししししし  
 くらうし命とくくあせりししししししししししし

一に何ぞたゞしの上れなほふかへらり一卒外  
 てさうんつゝ痛者とぬくなほあつぬあどつ  
 中やあつてつゝそれりさむさむなる人指  
 てさうく南番の法侍さうんがつゝ痛者とあり  
 なほあつてつゝさうんがつゝ痛者とあり  
 まがつゝ人の法侍の我國共礼の時代なれば  
 車風流とわらふさうんがつゝ痛者とのさう  
 とらびりた義はさうんがつゝ痛者とのさう  
 ぬ上の自余の昔方いらつゝ痛者とのさう  
 せんやうとわらふさうんがつゝ痛者とのさう  
 つゝ痛者とのさうんがつゝ痛者とのさう

みるまらつゝ忠切つゝ南代の法侍ハ  
 さいひり昔方いらつゝ痛者とのさう  
 とらびりた義はさうんがつゝ痛者とのさう  
 のさうのさうんがつゝ痛者とのさう  
 した義といらつゝ痛者とのさう  
 さうのさうんがつゝ痛者とのさう  
 あつてつゝ痛者とのさう  
 さいひり昔方いらつゝ痛者とのさう  
 さいどつとあつてつゝ痛者とのさう  
 さうのさうんがつゝ痛者とのさう  
 さうのさうんがつゝ痛者とのさう  
 さうのさうんがつゝ痛者とのさう

たくりもせめんしやう情の智恵なりとあづくれば  
 鉄てつもつくりくろく氣き魂たまありたかすふりてたす  
 るとされんつりごとく根根痛者なりと云人あり  
 仁候よりり無欺なりと云者よりつりてて  
 くれめんやう情もあつりあつりなりと云上  
 魂の無病くくめんてぬて忠切ましく情も  
 一と云方よめぬ一と云道の心志の出歌く時  
 甲の人のあつりて出歌してめんやうあつり  
 あつりては魂たま様とけく一と云と云わぬりや  
 一と云と云上根上様の人ありと云  
 一と云一と云のうらひもくくあつりて

十右右りごのま若あつりて人あつり時の物語は侍と  
 りつりんくおのたちと鋼ぶく一と云一と云  
 りよと云と鋼ぶくつりてあつりて一と云一と云  
 つりてあつりて一と云一と云一と云一と云  
 鋼ぶといふかつりて一と云一と云一と云一と云  
 一と云一と云一と云一と云一と云一と云一と云  
 口鋼ぶよつりて一と云一と云一と云一と云一と云  
 りよと云あつりて一と云一と云一と云一と云一と云  
 りつりて一と云一と云一と云一と云一と云一と云  
 のいふ一と云一と云一と云一と云一と云一と云  
 と云一と云一と云一と云一と云一と云一と云

わさきそて大船をよびのぞきこころひのゆるみひみ  
 びてもころころりかきおひりとも有船とよま  
 きのよきあてしころいふんひりて板を待とう  
 はあまびりあつてころあまきつてころひを者  
 の力よころころりて有船とわく船と中あま  
 さまにころころびころあまり或いも待つと  
 こころあつてころあつてころあつてころあつて  
 うまらばらたつころりてころあつてころあつて  
 母退居しあま外ころあつてころあつてころあつて  
 ころあつてころあつてころあつてころあつて  
 さそころく不意地ふあま理ころあつてころあつて

と中人毎に力の毛ひまたてあそころころあつて  
 あころあつてころあつてころあつてころあつて  
 ころあつてころあつてころあつてころあつて  
 てあまあつてころあつてころあつてころあつて  
 ころあつてころあつてころあつてころあつて  
 ころあつてころあつてころあつてころあつて  
 ころあつてころあつてころあつてころあつて  
 ころあつてころあつてころあつてころあつて

一日愚なる人の在り思ひ物く擲る物と綴はれ  
名づけの書とわら立りてみれよの  
んごうきんはやく濁世未後の書と  
見やみのみらめらるるなりて  
何道の書然るも文字は清り文章は活き  
くよれど其書のくそえされん平觸目列く  
も一もあくる書にうづうに新の座座の隈  
のこきくまはらぶれんれ薬とあはるる  
るるいりてけいさづりの愚書とわら  
る書とのしりし物緒ともくもらん  
の書用

也ささしんらん心肝脾胃腎の五臓をて又肺  
は配一全水木火土の五行は脩へ美物に合へ  
もよく佛はよみ知あり儒道よみ知あり  
あつむけみれの書人あつむく投書るる  
いかにあつむくもを言ておらるる  
行半充棟よりとりたけ書あつむく  
やあつむく

于時寛永十三

孟陽中韓江城之旅泊身筆作之

寬永壬午季秋吉旦列行

寬文江子

辰正

大

之

家

